



MDP

MATCHDAY PROGRAM

3.2

Sagantosu

(土)



14:00 KICK OFF
vs 北海道コンサドーレ札幌

©1996 CONSADOLE

本能という進化。
自分自身の結果でチームを
勝利へと導く。

サガン鳥栖加入2年目の昨季は自身にとってキャリアハイとなる10得点をマーク。長沼にとっては確かな自信を得たシーズンとなった。しかし、それだけの得点を積み上げながら長沼自身は明確な根拠を手にはしていない。ゴールシーンについて問われると「覚えていない」と答えることも少なくなく、試合後に映像を見返して、ようやく自分でも把握していたという。ただ、そこそが点を取る選手特有の“本能”なのかもしれない。昨季、シーズンの目標を5点に設定していたが、シーズンの前半戦でクリア。すると、「2ケタを取りたい」という得点への意欲が芽生えた。昨季は左サイドからのクロスが多かったこともあり、右サイドでプレーしていた長沼は自然とゴール前に入っていくシーンが増え、クロスに合わせるためのポジショニングを意識していくようになる。意識した動きを繰り返していくとその動きはいつしか無意識にできるようになっていた。「ここに入れば点が取れそうだなと思って」。得点後にこう振り返ることもあった長沼だが、ゴールへの匂いを嗅ぎ分けられるようになったということだろう。無意識に動けるようになったからこそ、得点に至るまでの動きを覚えていない。長沼は自然と得点への無我の境地へと達していた。

今季について「ACL出場を狙いたい」と目標を設定した。昨季、韓国遠征を経験して「海外のチームとバチバチにやる楽しさ。ACLに出ているクラブを見てうらやましいなと思った」ことが理由だという。昨季の10得点の中にはチームを勝利に導くものもあった。だからこそ、「自分が点を取って勝つのは気持ちいいし、点を取る気持ち良さを味わえた」と振り返る。「自分自身の結果でチームを勝たせられるようなシーズンにしたい」。自身が得点する快感はサポーターを笑顔にする喜び、チームで勝つという最高の瞬間につながる。昨季の進化を経て、長沼は今季も一つずつ得点を積み重ねて勝利への道を切り拓く。

木村情報技術

8

MF 88

長沼 洋一
Yoichi NAGANUMA